

和歌山県紀の川市（国内 21 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 10 日実施）

令和 2 年 12 月 10 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部につながる丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林に囲まれている。
- ② 農場の周辺の地域には複数のため池がある。農場敷地に隣接するため池では調査時に水鳥類は確認されなかったが、約 150m の距離にあるため池と約 300m の距離にあるダム湖ではカルガモやオオバン等少数の水鳥類が確認された。また、約 3.6km の距離にある池では、マガモ 189 羽、ヒドリガモ 180 羽等 400 羽以上のカモ類が確認された。
- ③ 当該農場には 9 棟の開放鶏舎があり、発生鶏舎は農場敷地の中央付近に位置している。発生時には、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。また、農場には GP センターが併設されていた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月以降 0~3 羽程度で推移していた。
- ② 12 月 9 日に発生鶏舎で 1 羽の死亡鶏と隣接する左右のケージで 1 羽ずつ衰弱した鶏が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時には、発生鶏舎においては、死亡鶏の増加等の異常は認められなかったが、発生鶏舎に隣接する鶏舎において、鶏舎内の複数箇所に散らばって、それぞれ 1~数羽の死亡鶏が確認された。管理人によると、通報日の昼過ぎまでは、この隣接鶏舎では異常は認められなかったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 20 名の従業員のうち 8 名は GP センター専属で、残りの 12 名のうち、主に 4 名が鶏舎の管理、7 名は死亡鶏と鶏糞の処理や運搬、機械トラブルの対応、出荷鶏卵の配達等に従事しており、1 名は全体を統括するが鶏舎には入らない。
- ② 管理人によると、鶏舎を管理する 4 名は、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行っており、従業員ごとに担当する鶏舎は決まっているが、担当の従業員が休みの日には別の従業員が代わりに作業を行っているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場入口で手指消毒を実施し、農場内では専用の作業着と長靴を使用していた。鶏舎毎に踏み込み消毒を実施していたが、長靴の交換はしていなかった。また、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、手袋の交換も行っていなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は地下水を使用しており、ろ過、消毒して給水している。
- ④ 鶏糞はスクレーパーで鶏舎奥に運ばれた後、スクリーンで鶏舎外へ搬出され、農場内の堆肥化施設で堆肥化される。なお、鶏糞の一時置き場と堆肥化施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、細断後、鶏糞とともに堆肥化処理している。
- ⑥ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト

トのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。

- ⑦ 管理人によると、今年11月の香川県での高病原性鳥インフルエンザの発生以降、鶏舎の出入口付近には消石灰を散布し、消毒を定期的に行っていたとのこと。
- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された消毒ゲートによる消毒を行っているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は上から、金網（マス目は約4×5cm）、木製の板、金網（上部と同サイズ）となっており、外側には防鳥ネット（約2×2cm）、ロールカーテンが設置されている。ロールカーテンが劣化により欠落している箇所では、ビニールシートが張られていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎では、側面の金網や防鳥ネット、ロールカーテンに大小多数の破損が認められた。木製の板の継ぎ目の隙間は広く、また小型の野生動物が侵入可能な穴も確認された。
- ② 管理人によると、数ヶ月前までは定期的に殺鼠材を散布していたが、ネズミを見ることがなくなったので、殺鼠剤の散布を止めていたとのこと。なお、鶏舎内でネズミやスズメを見ることはないとのことであったが、調査時には、小型の野生動物が侵入したと思われる痕跡が認められた。
- ③ 管理人によると、農場敷地内ではネコやスズメ等を見かけることがあるとのこと。調査時にも、スズメやセキレイ類等の小型野鳥が多数確認された。